

## ■ ■ ■ 新たな環境の創造への取り組み

工事の実施にあたっては、様々な環境監視調査を実施し、常に周辺環境に与える影響を監視しながら進めてきていますが、人工島建設に伴い、生育場が消失する海藻の環境保全対策や人工島及び周辺における環境整備により、新たな環境の創造に取り組んでいます。

### [海藻藻場保全対策]

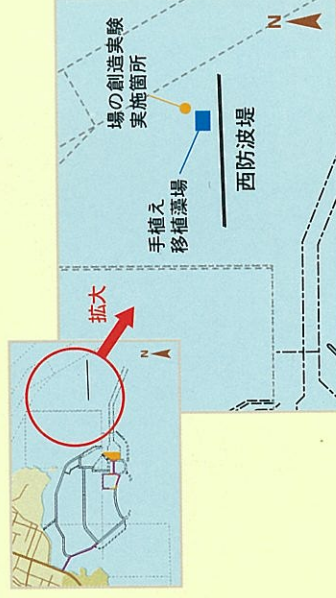
#### ○ 海藻移植の目的

事業の実施にあたっては、計画段階で埋立面積を縮小したり、埋立位置を沖側に出したりして、干潟や海藻藻場への影響に配慮しています。しかし、埋立によりどうしても消失する海藻藻場があるため、埋立により消失する被度50%以上の大型海藻を移植し、藻場生態系の保全に努めることとしており、平成14年度に、海藻の移植を行いました。

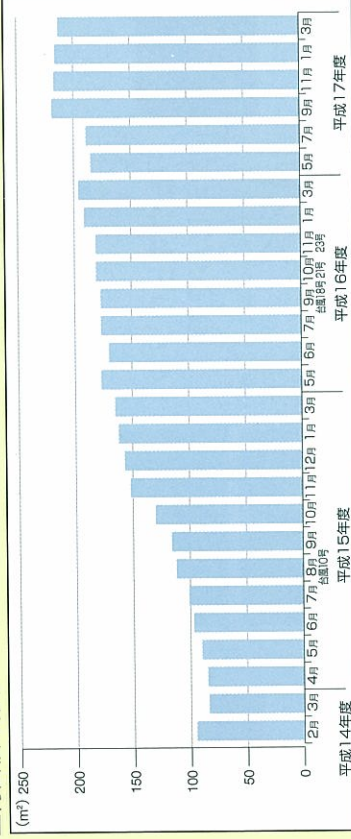
#### ○ 移植した海藻の評価

移植後3年を経過した現時点での評価は、生育面積、生育被度、生物生息状況を総合的に判断すると良好な状態となっています。

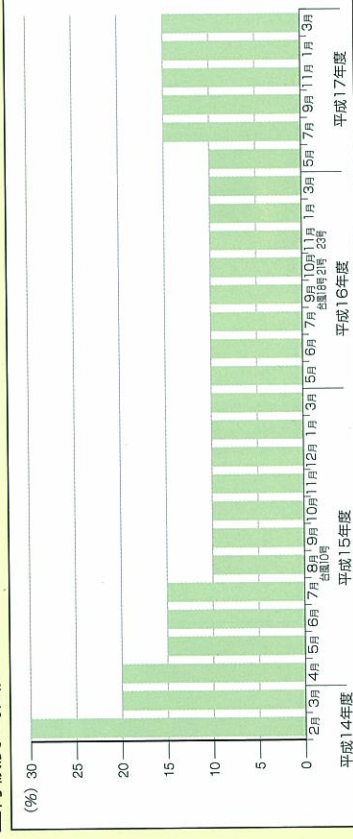
- ・ 生育面積は、移植直後から2倍に増加しています。
- ・ 生育被度は、移植時点までは回復していないものの、平成17年夏頃から増加傾向にあります。
- ・ 生物生息状況は、周辺の自然藻場と同程度の種類数、個体数を確認しています。



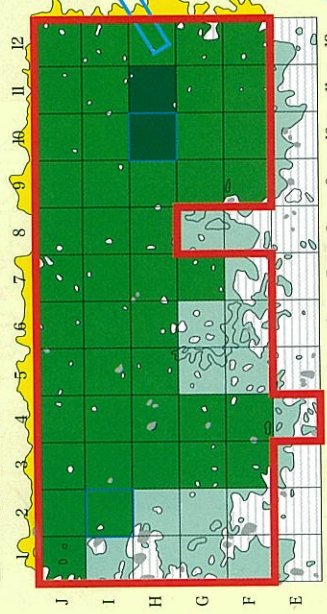
生育面積の推移



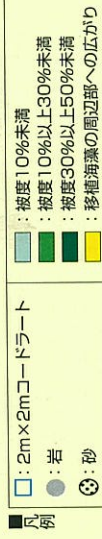
生育被度の推移



上の藻場が全体的に広がっている



移植3年2ヵ月後(平成18年3月1日) 全体平均被度:15%



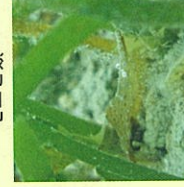
[注] 全体平均被度は移植時に手植え移植を行った□囲いの59株における生育被度の平均で示す。



平成15年2月撮影

地点10H(2×2mコールドラート)の状況写真ハッチ

モエビ類



アメフラシ類



ハボウキガイ



自然藻場と同程度の生物生息状況